

第三部理工系学協会の活動と学術情報に関する分科会（第24期・第3回）議事録

日時：2019年10月29日(火) 10:00-17:45

場所：日本学術会議6階6-A(1)会議室

出席：山口 周，菱田公一，安達 淳，田近英一，小松利光，柴田直，田辺新一，茶谷直人，花本啓祐，吉村忍，米田雅子

欠席：川村光，小菌英雄，大西公平

情報提供：青木学総(京都大学)，アントワーン ブーケ (Springer Nature)，Gemma Hersh (Elsevier)，Anders Karlsson (Elsevier)，松邑 勝治 (JST)，野上 職 (東京大学)

陪席者：小賀坂康志 (JST)，和田 光俊 (JST)，岩島 真理 (JST)，遠藤昌克 (SN)，小島洋介 (SN)，浦口周二 (E)

議事：

1) 前回議事録の確認

- ・前回議事録案(資料1)の確認を行った。最終校の確認は委員長一任とした。

2) 本日の分科会の趣旨説明

- ・委員長より本日の審議内容に関する趣旨説明があった。前回の決定を変更し、全体で各小分科のテーマについて検討する。学協会の機能強化と理工系におけるオープンサイエンスに関わる課題については今後の検討方針について、その他についてはこれまでの検討方針に従って審議を進める。午後の電子ジャーナルの購読に関わる問題については、Elsevier社ならびにSpringer Nature社と日本学術会議が守秘義務契約を交わしている。事務局より、出席委員は非常勤国家公務員であり国家公務員法第百条にある「職員は、職務上知ることのできた秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後といえども同様とする。」という秘密を守る義務を負う、との説明があった。

3) 学協会の活動強化に関する小分科会

- ・田近幹事(東大)から、資料4-1に基づいて学協会の活動強化小分科の検討テーマについて説明があり、連携・連合体形成の課題ならびに留学生問題に焦点を当てることが説明された。
- ・田近幹事から、資料4-2に基づいて「公益社団法人日本地球惑星連合設立の経緯と現状」に関する情報提供があった。

4) 理工系におけるOpen Data/Open Scienceに関する小分科会

- ・安達幹事(NII)から、資料5-1に基づいて理工系におけるOpen Date/Open Scienceに関わる課題と問題点について説明があり、理工系分野に影響が大きい論文出版と研究データに関する審議を中心に進めるとの提案があり了承された。
- ・青木学総氏(京大)から、資料5-2に基づいて「大学での研究データ管理とオープンサイエンス対応」に関する説明があった。

- 5) 電子ジャーナル購読に関する小分科会
- ・アントワーン ブーケ氏(SN)により, 資料6-1について説明が行われた(非公開).
 - ・Gemma Hersh氏(Elsevier)により, 資料6-2について説明が行われた(非公開).
 - ・Anders Karlsson(Elsevier)氏から, 資料6-3に基づいて「Research Futures」に関する説明があった.
- 6) ジャーナル出版問題に関する小分科会
- ・松邑 勝治(JST)から, 資料7に基づいて「JSTにおける引用文献情報の整備状況と活用可能性」について説明があった.
 - ・野上職氏から, 資料2に基づいて「学術の信頼性を損なう捕食雑誌問題」に関する説明があった.
- 7) 今後の検討について
- ・参考資料は次回以降の審議のための資料である.
 - ・各小分科会の検討課題が相互に関連しているために, 当面は従来通り全体で審議することとした. また, 提言の骨子が定まった部分からドキュメント化することにした.
 - ・次回は2020年2月14日(金)に開催する.

以上

配付資料:

- 資料1 第2回第三部理工系学協会の活動と学術情報に関する分科会議事録(案)
- 資料2 Research Future Summary
- 資料3 学術の信頼性を損なう捕食雑誌問題(学術の動向、2019年10月号記事)
- 資料4-1 学協会の活動強化小分科会
- 資料4-2 公益社団法人 日本地球惑星連合設立の経緯と現状
- 資料5-1 理工系におけるOpen Data/Open Scienceに関する検討
- 資料5-2 大学での研究データ管理とオープンサイエンス対応
- 資料6-1 Springer Nature 社発表資料
- 資料6-2 Elsevier 社発表資料
- 資料6-3 Research Futures, Summary Report
- 資料7 JSTにおける引用文献情報の整備状況と活用可能性
- 参考資料1 日本の基礎研究の東アジア化(世界経済評論 IMPACT+, No. 9)
- 参考資料2 学術誌をめぐる諸問題と将来展望(学術の動向、2019年10月号記事)
- 参考資料3 NISTEP-RM284「科学研究のベンチマーキング2019 論文分析でみる世界の研究活動の変化と日本の状況-」Summary